



## 巻頭言

牧師 丹羽 昭 男

「約束の御霊」

聖書 ヨハネ十四章十六―十八節

〔1〕 序 論

主イエスは十字架において、救いの御業を成し遂げてくださった。そして、三日後に復活された。

しばらくの間、弟子たちに復活の御姿を示された後、天に昇っていかれた。

〔2〕 主イエスは去って行かれる

主イエスの地上における働きの時間が段々と少なくなってきた。

そこで、弟子たちに対して何回も「わたしは間もなくこの地上を去って行かなければならない」と語ら

れた。そのことを聞いたとき、弟子たちは大きな悲しみと失望に陥った。

それまで主イエスと共にあって主イエスの力強いメッセージを聞きその御業・奇跡を見てきた。

この主イエスといつまでも一緒に居たい。

それなのに、主イエスは去っていかれるという。何と悲しいことだろう。弟子たちはがっかりした。

〔3〕 別の助け主

その弟子たちに主イエスは続いて言われた。

『私は去って行くがすぐに別の助け主が来る』

主イエスは弟子たちの前から姿を消していかれる。けれども、弟子たちを見放されてしまうのではない。

主イエスに代わって別の助け主が来られる。そのお方こそが「真理の御霊」・「聖霊なるお方」で

ある。

悲しみと失望の中にあつた弟子たちに主イエスはこの約束をされた。

#### 〔4〕御霊の優れた点

##### ① 制限のないお方

主イエスは弟子たちに更に言われた。

『わたしが去って行くことは実はあなたがたにとつて益である』と。御霊が来て下さるからである。

ではどうして御霊が来て下さることは主イエスが居られたことよりも益になるのか。

それは、主イエスが弟子たちと共におられた時には、肉体をもつておられたので行動範囲に制限があつた。

主イエスは同時に同じ場所に居ることはできなかった。エルサレムに居ながら、同時にガリラヤに居ることはできなかった。またヘテロと共に居りながら同時に

に異なつた場所に居るヨハネと共に居ることはできなかった。

主イエスは一箇所にしかおろすことができなかつた。

しかし、御霊は霊なるお方である。それゆえに、時間的にも、場所的にも制限をもたれない。同じ時に同じ場所に居ることができる。日本に居られると同時にブラジルにも、世界中どこにでも居られる。

##### ② 内からの感化

さらに、主イエスは肉体をもつておられたのでいつも弟子たちに対して外から感化を与えられた。しかし御霊は弟子たちの心の内に住み、内から感化を与えられる。

#### 〔5〕結論

今は私たちがクリスチャンの心の内に、この御霊が居られる。だから、このお方に頼りつつ、委ねつつ

歩みたいものである。

その時、御霊が私の内から働いてくださり、すばらしいクリスチャン生涯を送ることができる。

あかし

「ハレルヤ！感謝！」 浅井津哉子

「驚かないでね・・・」深刻な息子の表情を見て一瞬悪い予感が脳裏を横切った。

娘・登茂子が突然倒れ意識不明、集中治療室で諸検査中とは・・・そのうえ、全身麻痺で言語障害もあるらしいとのこと。

「えっ、登茂子が？間違いでしよう・・・彼女はまだ五十六歳よ・・・」私は反射的に否定した。

娘はもう数年間ずと体操を続けジョキングをし食事にも気を配り、定期検査では異常もなく、私の知る限り理想的な健康状態だった。

昨日も電話で体調の優れない私を気遣い「当分、我家で静養したら？」と元気な声で呼びかけてくれた娘に二つ返事で承諾した矢先のことだったから。

しかしこれが事実で、脳溢血、脳梗塞など脳につながる病気だとしたら、これは大変なことだ！一瞬私は闇の中に押し込まれた感じになり不安と恐れが胸を圧迫し呼吸困難を覚えた。

「登茂子がこのまま植物人間になったら・・・意識が回復しても人間としての尊厳を保ち得るだろうか？・・・」  
考えること、思うこと全てがマイナス思考に傾き不安が大きく広がるばかりであった。

『悩みの日にわたしを呼べ、わたしはあなたを助け、

あなたはわたしをあがめるであろう』詩五十ノ十五

「そうだ。お祈りによって助けていただく。」

常日頃、弱い私はこの御言によって幾たび力を与え

られたことか。だのに、この全能の神様をすっかり忘

れ、自分の思い、恐れだけをいたずらに増幅させてい

たことにやつと気づいた。

『義人の祈りには効果がある』とは主のお言葉。

まず、第一に丹羽牧師宅に電話で娘の窮状を説明

し牧師夫妻に「執り成しの祈り」をお願いした。

同居中の孫娘は母親の看病で実家に帰りひと

り残された私は時間に関係なく「主よ、わたしの祈り

を聞き、わが口の言葉に耳を傾けて下さい」と夢中

で祈り続けました。

入院四日目の土曜日、許された面会時間ぎりぎり

に病院に娘を見舞った。

「ハレルヤ！」主は御業を成して下さった。

意識は戻り、顔の表情も明るい。運動神経もこち

らで指定した指を僅かではあるが動かすことができ

る。人の識別は未だできないが、相手に向ける眼差し

がなんとも柔和で嬉しい。しかし言語障害はきつく

発声、応答など一切できないが・・・最善を成し給う

「主の時」を私は確信して待ち望んだ。

発症後二ヶ月経った。言語障害も克服され、読み

書き計算もできるようになり、殆ど日常生活に

支障はないまでに癒された。ただ、パソコンの操作だけ

がダメで全くの白紙状態と嘆いていた。

ある日の夕方、娘は無意識にパソコンを操作して

いてフット気がつき大喜びで叫んでいた。

「全く奇跡。感謝だわー感謝よー神様に感謝しな

や」。以前のようにはパソコン操作ができていた。

私は「感謝」と日本語を連発しているのを聞いて驚

いた。彼女との会話は、日本語だけで通じてきたが「感謝」という言葉はあまり耳にしなかった。

すると私の教育に問題が……。神を拒否し続けていた当時の私、何事も自己中心で、愛の心、感謝の気持ちを実践しなかった「欠陥ママだったよ」と主の指摘を受け反省しきりである。

娘はこの試練によって神様から「感謝の心」と「美しい日本語」をプレゼントしていただいた。

ハレルヤー！感謝です。温かいものが込上げてくる。『神は苦しむ者をその苦しみによって救い、彼らの耳を逆境によって聞かれる』ヨブ三十六ノ十五

「神の選びに与って」吉加江紀子  
私はクリスチャンになって今年で約三年になります。

息子が私より先にクリスチャンになり、入信を勧めてくれ、私のためにこの日語で礼拝を行っているサウーデ教会を探してくれました。

二〇一〇年一月四日初めてサウーデ教会を訪れ、丹羽牧師や美香先生を初め教会の皆様は、温かい歓迎をいただき心が和んだことを今でもはっきり覚えています。

それまでは息子に誘われて他教会の礼拝(ボ語による)に出席していました。しかしただ礼拝の雰囲気(ひた)に浸るだけでしたが、此処では神様の御言をはっきりと理解することができましたので、本当にこの教会に来て良かったと心から思いました。

教会に通い始めて五ヶ月目に丹羽牧師から受洗の話がありました。何も解かっていない私なのに：と思いましたが、自分自身は、はっきりと神様を信じていると確信がありましたので受洗する決心をしま

した。

また先生からも「これから一生懸命に信仰の道に入って神様の御言を学び、神様の御心を教えられていきましよう」と声を掛けられて決心したのです。

そして、受洗当日（洗礼後）丹羽牧師から「神様があなたを選んでくださったのです」と言われびっくりしました。それまでは自分が決心をして入信したと思っていました。しかしそうではなくて神様が多くの人のなかから私をお選びくださっていたとは……。思いもよらないことに心を新たにしました。

礼拝に出席するようになって毎回の説教の中で自分に当てはまることの多さに神様の偉大さを感じ知らされる毎日です。

今まで自分は本当に知らず知らずに罪深いことをしてきたことに気づき、反省することがとても多くなりました。

また、礼拝説教の中で今まで何気なく知っていた言葉・たとえば『狭き門から入れ』と言う言葉は聖書の神様の御言と知り感無量でした。

このように日々、今の私は「神様第一」をモットーにして！と思っています。がなかなか半分も実行できずにおります。

けれども、「神様が私を選んでくださった」と言う初心を忘れずに、神様の臨在を覚えて、毎日の生活の中でいつも心騒がせず、全てを神様に委ね、感謝を忘れずに生活したいと思っています。

私の今年の目標であり願ひである夫の入信を心から祈っています。

これは毎日の暮らしの中で夫に言葉だけで信仰を伝えるのではなくてクリスチャンとされた私の日ごろの態度を感じて、理解して入信してくれるように祈っています。

いつ ひ てんごく おっと さいかい  
何時の日かまた天国で夫と再会できると確信し  
ながら生きる。こんな意義ある人生はないと信じます。  
かんしゃ  
感謝をもってこの証をさせていただきます。

崎山美知子

よきし  
良き師あり 良き友どちに かこまれて  
わがさんせい  
我が残生の 冬日はぬくし

「花に想いを寄せて」

にちようび きようかい  
八月十九日の日曜日、教会に飾られたつつじの花。  
ましろ  
真っ白な花びらの中に、細い筆でほんの一刷け、紅  
うす ひ  
を薄く引いたように咲いている。

うつく  
そのつつじの花のあまりの美しさに暫し見とれてお  
りました。口では到底言い表せない自然の美・・・!

み  
花を見てこんなに感動を受けたのは初めてでした。

しよくなつ なか はな いちばんしゆらい おお  
植物の中では花が一番種類が多いと思います。

どうめい はな しろ あか きこと  
同名の花でも白、赤、黄と異なった色に咲くバラ、

タリヤ、カーネーション等など、本当にそれぞれ美し  
うつく

やき  
く優しさを感じます。

はな きび  
花には寂しさを感ぜさせる花はありません。

おめでたい時花を飾り、お祝いの時も花を贈り  
おく

びようき みま ととき ひごと  
また病気のお見舞いの時も、人の心を和らげる花を  
なが  
眺めながら「早く好くなつてね」と、花を持って行き

ます。  
はな ほんどう ひと こころ なぐき あか  
花は本当に人の心を慰め明るく楽しませてくれます。

ます。

はな ほんどう ひと こころ なぐき あか  
花は本当に人の心を慰め明るく楽しませてくれます。

NHKのテレビで時々「花は・花は・花は咲く」と

はな いちりん て うた  
花一輪を手に歌っている場面を見ます。

つぎつぎ だいさいなん  
次々と大災難に出くわしている日本の多くの人々

みな  
に「皆さん！がんばりましょう。花の咲く時がきます。

はな かなら き  
花は必ず咲きますよ」と、気持ちを引き立て、勇気を



与えるために歌われていると思います。

花は楽しい時は優しい気持ちを与え、寂しい時は心を和らげ、慰め、力づけてくれます。

神様はこのような美しい花々をこの世にお与えくださいました。

深い神様の人類に対する愛を感じます。この神様の御業とお恵みを私は心から感謝致します。

### 出山 富美子

「お祈りを感謝します」

昨年さくねんの十一月より礼拝出席ができなくなり、教会の皆様には大変たいへんご無沙汰ぶさたいたしております。

十一月四日に激痛げきつうがあり背骨を骨折こっせつしてしまいました。それ以来、治療に専念せんねんしていたにもかかわらず

ず、三月にまた、骨にひびが入り、検査や治療に追われるようになりました。寝る時も体を真つ直ぐにして休まない痛みに襲われます。

朝起きる時痛みを感じ大変ですが、しばらくすると楽になってきます。いまでは家で車椅子生活ですが

ボツボツ動けるようになりました。

病の中にも大いなる慰めをいただき、主イエス様や家族の者に支えられ、神様から教えられることが多くあり感謝しています。

美香先生が週報の裏に書いてくださったいた

短文や詩は教えられ、反省することも多くありましたので、ノートに書きとめて毎日読んでいます。

礼拝に出席できない私はCDやDVDで礼拝説教を聴いています。特にコロサイ人への手紙(丹

羽牧師の説教)で考えさせられました。いつも「な

ぜ私・・・」と病弱な私は悩んでいました。

しかし、「神様が信仰を強めて下さる」なんと感謝  
なことでしょう！

いつも感謝する。感謝の心を持つ。「感謝の心を持

つ人になりなさい」と教えていただきました。

毎日夫と共に御言を読み、祈りの時をもつて生

かされていることを感謝する日々です。

いつも優しく介護してくれる夫の為に「彼の

健康が支えられる様に」また、息子や娘たちの為

に、教会の方一人一人の名前を挙げて祈っています。

これは何もできない私の主イエス様に対する感謝

と奉仕の気持ちです。

今年新年に私に与えられた御言は詩篇三十七ノ

三十四です。『神の道をしっかりと歩んでいくのです。

神様が乗り出される時をじつと辛抱して待ちなさい』

(リビングバイブル訳)

主に全てをお委ねして祈りつつ歩んでいけるこ

とを心より感謝しています。ハレルヤ！アーメン！